

## 2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	あまみず活用の評価を考える小委員会	主 査 名：笠井 利浩 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：中野 民雄
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>雨水関係 AIJES について、雨水活用の総合評価を行うためにはさらに検討を重ねる必要がある。海外の評価手法などを参考に評価基準の基本方針や、2021 年度から始まる AIJES 雨水活用技術規準の改定を見据えた議論を広い視野で行う。</p> <p>初年度：雨水関係 AIJES をベースに、総合的な雨水活用の評価に必要な内容について議論し、評価項目の大まかな枠組みを考える。</p> <p>2 年度：初年度の議論の結果を基に、評価項目の決定と各項目で求められる内容を考える。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	<p>主査：笠井利浩(福井工大)</p> <p>幹事：尾崎昂嗣(アールストユー・ソリューションズ)、笹川みちる(雨水市民の会)、宋城基(広島工大)</p> <p>委員：大西和也(雨水貯留浸透技術協会)、江曉歆(千葉大)、摺木剛(丸一)、向山雅之(竹中工務店)、日高規晃(日盛興産)、青木一義(西原衛生工業所)、平山由佳理(工学院大学)、小川幸正(まちづくりネット)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	39,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 当初の委員会開催計画 (6 回) に対し、隔月 1 回の委員会を継続的に実施している。関連の団体、個人との交流や情報交換を行うと共に雨水活用の評価に関する意見交換が行えた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 水環境運営委員会内の小委員会には、取り扱う内容の共通点が高い委員会があるため、今後連携を密にして活動を行いたい。また、雨水活用普及のためには数多くの専門・分野の方々の参加が必要であるが、新たなメンバーの参画が少ない状況にある。

小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2022 年度 小委員会活動 自己評価 (最終年度評価)

<b>総合評価 (4段階評価)</b>	B
<b>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</b>	<p>本委員会設置当初よりコロナ禍での活動であったが、オンラインへの委員の慣れもあり、当初の予定通り隔月、年6回の委員会をオンライン下で開催しこれまで通りの活発な意見交換、情報共有などが行えた。</p> <p>しかしながらその一方で、前項の委員会活動の問題点・課題にも書いたように、雨水活用の評価を検討するには水に関する専門家の他に極端に言えば経済の専門家等、幅広い専門知識が要求される。今後は、建築学会以外の学会からもメンバーを募り、幅広い議論を行わねばならないと考える。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。